

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2196 号

Atypical radiologic appearances of computed tomography of the chest in patients with lymphangiomyomatosis

非典型所見に着目したリンパ脈管筋腫症の胸部 CT 解析研究

関本 康人 (せきもと やすひと)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、リンパ脈管筋腫症 (lymphangiomyomatosis: LAM) の胸部 High-resolution computed tomography (HRCT) 所見において、多様性に注目し非典型所見の種類と頻度を初めて明らかにした臨床的に意義のある論文である。嚢胞性肺疾患の鑑別に HRCT における典型所見は非常に有用で、米国胸部疾患学会 (ATS) / 日本呼吸器学会 (JRS) のガイドラインでも LAM を疑った場合にまず施行すべき検査として HRCT が推奨されている。しかし、先行研究で胸部 HRCT による LAM の正診率は胸部の読影を専門とする放射線科医で 91%、呼吸器専門医で 86% と報告されている。つまり、10-15% は典型的な所見に合致しない、従来の LAM に特徴的な HRCT 所見を基にした読影では診断が困難な症例が存在する可能性が考えられた。本研究では 311 例という先行研究にない症例数の LAM 患者の胸部 HRCT を後ろ向きに解析することで非典型所見の種類、頻度を明らかにした。LAM は有病率が 100 万人あたり約 1.9~4.5 人という希少疾患であり、一般呼吸器内科医や放射線科医が実際の症例を目にする機会は非常に限られており診断に難渋する場合も多い。本研究によって、非典型所見の頻度、種類、またその画像所見が明らかになり世に広まることで日本、ひいては世界の LAM 診療の一助になると考えられる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。